

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
レクリエーションアクティビティⅠ Recreation Activity I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(レクリエーションインストラクター資格取得者は必修) 特になし	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
レクリエーションアクティビティⅡ レクリエーション理論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
レクリエーション理論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
新村 悦子	非常勤講師室	授業において指示する		授業中に指示します
授業の概要 今後、さらに増していく余暇時間にレクリエーションを通じた支援ができるように、多様な活動・種目の基礎知識と支援の方法を学習します。				
授業の目標 ①レクリエーション財の研究・演習を通してレク活動への理解を深めることができるようにする。 ②グループワークを通して集団の中での役割を果たすことができるようにする。				
授業の方法 グループワークなどを取り入れた講義と、レクリエーション実技を組み合わせた演習方式で行います。				
学習の成果(学習成果) ①レクリエーション財を理解し、その財を対象者に提供することができる。 ②対象者とする集団に対して、ホスピタリティの精神を持って援助することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	21世紀の社会とレクリエーション運動			
第2回目	レクリエーションへの期待			
第3回目	人を支える「支援者」にとってのレクリエーション			
第4回目	コミュニケーション・ワーク①: ホスピタリティとは			
第5回目	コミュニケーション・ワーク②: ホスピタリティの示し方			
第6回目	コミュニケーション・ワーク③: アイスブレーキングとは			

第7回目	コミュニケーション・ワーク④: アイスブレーキングの方法		
第8回目	ニュースポーツの体験		
第9回目	余暇活動種目の実際①: ネイチャーゲーム		
第10回目	余暇活動種目の実際②: ウォークラリー		
第11回目	余暇活動種目への実際③: 車椅子レクダンスの体験		
第12回目	レクリエーション支援の考え方①		
第13回目	レクリエーション支援の考え方②		
第14回目	アイスブレーキングのプログラム① 介護・高齢者支援の現場		
第15回目	アイスブレーキングのプログラム② 子どもの居場所(遊びの城)・自然体験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		10%	・授業中に与えられた課題に対して前向きに取り組んでいる。・グループワークに積極的に取り組んでいる。明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に評価する。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
試験		90%	最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿って、学習の成果が十分に示されている。
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
レクリエーション支援の基礎(財団法人日本レクリエーション協会)			
履修上の留意点・ルール			
レクリエーションアクティビティⅠ、Ⅱの順番で履修すること。			